

IP 時代における電気通信番号の在り方に関する研究会
ワーキンググループ（第3回）議事概要

1 日 時

平成17年6月2日（木）10：00～11：10

2 場 所

総務省8階 第1特別会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 構成員

相田 仁（リーダー）、一井 信吾（サブリーダー）、秋元 洋子、荒本 和彦（代理吉田 寿義）、粟野 友文（代理 吉田 敦）、市来 裕教、稲田 晃典、大熊 博之（代理 土屋 行彦）、加藤 朗、加藤 義文、川西 素春、川村 正道、小出 利一、佐野 晋、澤田 和良、清水 博一、白澤 進、内藤 郁夫、西 和雅、西川 嘉之、堀内 泰樹、山田 博（以上22名）

(2) 総務省

金谷電気通信技術システム課長、門馬番号企画室長、深堀課長補佐、上野番号企画係長、藤原番号管理係長

4 議 事

(1) 第2回ワーキンググループ議事概要の確認

総務省より、第2回ワーキンググループ議事概要（案）について説明があり、修正等がある場合には、6月10日（金）17時までに総務省に連絡することとなった。

(2) 前回親会での審議状況報告

相田リーダーより、第3回研究会（親会）にてワーキンググループ検討状況を報告した際に、斎藤座長及び構成員より、ひっ迫を回避できるようワーキンググループ報告書で期日を設定して取りまとめるよう指示があった旨の説明があった。総務省より、研究会（親会）での検討状況（論点整理）について説明があった。

(3) 議事 「報告書（案）について（第4章）」

総務省から、報告書（案）第4章の概要、及び事前照会時に提出された意見の説明が行われ、各構成員より次のような意見があった。

相田リーダーより、第4章2ページ4-1を「0AB～J番号を用いたIP電話の具体的な需要が把握できず、ドライカップを用いる電話サービスを想定していなかった。」という表現とした方が良いのではないかとの意見があった。

相田リーダーより、新たな対策の検討・準備については「3年後に予想されるひっ迫」等、具体的な記述としてはどうかとの意見があった。

(4) 議事 「報告書(案)について(第5章 5-1)」

総務省から、報告書(案)第5章5-1 ENUM関連部分の概要の説明が行われ、各構成員より次のような意見があった。

小出構成員より、17ページ(4)の「国番号に続く1桁目に『0』を使うべきではない」としている部分をITU勧告の記述に合わせて正確に記述した方が良いとの意見があった。

加藤(朗)構成員より、トライアル用のトップレベルドメインは「e164.arpa」とされていることを明確に記述してはどうかとの意見があった。

相田リーダーより、図表5-4を参照する文章を修正する提案があった。

(5) 議事 「報告書(案)について(第5章 5-2)」

総務省から、報告書(案)第5章5-2 1XY関連部分の概要についての説明が行われ、各構成員より次のような意見があった。

西川構成員より、今回の提案に対して構成員からの賛同は得られなかったことと、スケジュールが迫っていることから、次回に1XY番号について検討する場合は、提案した点を踏まえて検討頂きたい。報告書(案)に賛同するとの意見があった。

秋元構成員より消費者の立場としては、営業・料金案内に新たに1XYを使用することは混乱を招く可能性があるため、報告書(案)のように新しい番号を作らないことが望ましいとの意見があった。

(6) 議事 「その他」

審議結果を踏まえた報告書案の修正は、メールにより照会を行った上で、最終的な報告書案の文面については相田リーダーへ一任することとなった。

(7) 今後の予定について

総務省より、6月15日に開催予定である研究会(親会)第4回会合において報告書全体の審議を行い、約1ヶ月間パブリックコメントに付した後、7月中に研究会(親会)第5回会合を開催して最終報告書を取りまとめる予定である旨の説明があった。

相田リーダーより、本ワーキンググループの活動は今回で全ての審議を終了すること、及び構成員の寄与に対する謝辞が述べられた。

以上